

あごねつと便り

2014. 4 号外 ～カナダ編～



中桶 了太

H7年 長崎大学医学部卒

長崎大学病院へき地病院再生支援・教育機構 准教授

カナダの Northern Ontario School of Medicine (NOSM) 地域医療教育を見てきました。最低気温は-28℃と寒いより「痛い」。

しかし、地域医療については熱いディスカッションを交わしてきました。

NOSM では地域の医療機関での教育を重視しており、臨床実習は3年次に8ヶ月間へき地の医療機関で行います。

医学生、研修医共に「地域の方が実践力がつく！」と積極的でした。(カナダの医学部は学士入学で4年間の教育です) 地元の市長は地域に研修医がやってくることで地域が活気付き、地元が元気になるとの言葉が印象的でした。

今立 俊輔

長崎医療センター総合診療科、長崎県離島・へき地医療支援センター 専属医
主に離島支援をしています。専門領域は家庭医療、地域医療。



カナダの医学部、Northern Ontario School of Medicine (NOSM) を見学させていただきました。

地域に医療を届けるために、お医者さんを養成する事も重要。でも、ただお医者さんの数が増えればいい訳でもない、「地域を支える」というマインドの育成が重要。NOSM の教育システムの中には、一貫して「地域を支える、地域で働くお医者さんを育てるぞっ！」というビジョンとミッションが行きわたっていました。

教育機関、地域病院、そして地域コミュニティまでもが協力し、医学生を育てている。地域でいい研修ができれば、きっとその地域で働きたくなる！これが、もしかしたらへき地の医師不足に対する特効薬かもしれません。



原田 直樹

H22年 長崎大学医学部卒

国民健康保険 平戸市民病院 内科

カナダはアメリカとの国境付近が都会で、そこから北に進むとすべてへき地です。広大なへき地のあるカナダで地域医療教育について学んできました。

学生のうちから地域の病院へ実習に行き、地域医療に早期に触れる (early exposure)。地域では学生や研修医を快く迎え、地域に関心を持たせています。

学生や研修医は常に各病院の指導医やコーディネーターから細かくそれぞれの研修到達度をチェックされ、臨機応変に研修内容を調整されます。若いころに地域で多くの体験をすれば、ゆくゆくは指導者としてまた地域に戻ってくるそうです。

AGO ネットの取り組みと、カナダの取り組みは実はかなり似ています。学生、研修医が地域で様々な経験をし、地域を楽しみ、将来は地域医療に従事したいと感じることができれば、まさに望むべき研修制度であると思われまます。

平成 26 年 3 月 15 日～3 月 23 日

家庭医療の先進国、カナダへ視察に行ってきました！

いち早く皆さんに伝えたい！カナダの家庭医療。

あごねつと号外～カナダ編～で皆さんにお届けいたします。



Huntsville District Memorial Hospital

Huntsville サテライト研修施設です。

NOSM では3年次(カナダの医学部は学士取得後、4年間の学部教育です)8か月サテライト施設での研修です。

ここでは4名の学部生が研修していました。地域で研修は実践に近い研修が可能であること、コミュニティーへの関与が可能であるそうです。日本と同じ感想でした。

地域の医療機関の中に大学の分室が設置されており、研修をマネジメントする事務スタッフが1名常駐し、スケジュール管理されていました。

指導医は病院の常勤スタッフからプログラムディレクターが選ばれており、臨床的な面でのネゴシエーションなどを行っているそうです。



North Bay Regional Health Centre

2011年に近隣のMental Healthを含めた3つの病院が合併して誕生し、新しく綺麗な病院です。

NOSMでは最も大きな規模の研修施設で、医学生8名、レジデント(家庭医研修医)4名の体制です。

彼らは地域医療で働くことを願ってNOSMに入学している学生ばかり。背景や年齢にバラエティに富んでいるのがこの学校の特徴だそうです。中には孫を持つ医学生もいるとか・・・しかし全員が地域で働くことに強い使命感を持っています。

それは奨学金などでの制限はないそうです。これには驚き！

